小松神社の村祭り

D：11月23日【平家祭り】(へいけまつり)

《小松社の平家祭り》(小松社:祭神＝平重盛)　　(平家浮立を出す。)

氏神様(小松内大臣　平重盛　卿)に対して、秋の五穀豊穣への感謝と平重盛公

をしのび、平家の存在を鼓舞する祭り。

(現在では【平家祭り】と【潮取り祭り】を総称して【小松社の秋祭り】と呼んでいる。)

(平家祭りは、現在9月12日の潮取り祭りの日に神事だけが行われています。平家浮立は、県・市・学校等から依頼されるような特別なイベントがあるときだけ催され、小松神社の神前に奉納されている。)

小松社の【平家祭り】は秋の五穀豊穣への感謝と、平重盛公をしのび平家の存在を鼓舞する祭りです。
現在は新暦の9月12日の【潮取り祭り】と同日に行われていますが、以前は秋の収穫が終わったあとに行われていた収穫祭の行事です。したがいまして、現在の日程での【秋祭り】は収穫祭とは言い難い状況とも感じられます。
昔は毎年【春祭り】と【秋祭り】が執り行われ、部落民総出の平家浮立が出されていましたが、時代の流れの中で、【秋祭り】だけが存続するようになりました。また、平家浮立も現在は不定期に出されるようになっています。

以前は、【春祭り】を2月の祈年祭(きねんさい)から花見の4月の間に、【秋祭り】を11月の新嘗祭(にいなめさい)の頃に執り行われていたようです。
戦後、小松の平家浮立が再開された頃が日本が高度経済成長期にあたり、、小松社の【春祭り】は、田や畑の準備で忙しい時期であることもあり、【秋祭り】だけが存続するようになります。
しかし、その後【平家祭り】も、部落の少子高齢化と勉学・経済最優先の時代の流れの中で,【平家浮立】を伴うこの祭りの存続が困難な時を迎えることになります。現在は、9月12日の【潮取り祭り】の中に組み込まれるようになり、その日に【平家祭り】の神事が行われ、【お宮さんの秋祭り】として残るようになりました。平家浮立も現在では特別なイベント(県・市からの依頼の伝承祭や学校・神社等の新築・改修工事の落成式、または町村の記念式典)があるときにのみ、小松社への浮立の奉納と小松部落内の新築された家々を、浮立を演奏してまわるようになっています。
小松の平家浮立は老若男女・子供達まで参加の部落民総出の伝統芸能で、他所の祭りにはなかなお目にかかれない貴重な芸能であることは間違いありません。どの様にして時代に即した小松の平家浮立を継続していくべきかが問われています。
日本人の精神はまだまだ祭りの中で存在しています。自然や季節の恵みにに対する謙虚な心、感謝や祈りは、日本人の捨てがたい美点です。無病息災・五穀豊穣の神への祈願は、健康を気遣い、自然崇拝の日本人の心の現れです。
郷里を離れて気付かされることが有ります。幼少期から青年期までに育った土地の思い出や文化は人生の中で、郷愁として残る事です。郷愁は若い時にはなかなか気が付きませんし大したことでもありません。しかし人生が解ってくると郷愁にひたることも悪くないようになります。その人の郷愁が美しければ美しいほど良き人生観を得らたように感じます。
小松で育った子供や孫たちの為にも、良き郷愁が残されるように、郷里に在住する人たちが、今後の文化伝承を考える時期であるように感じます。

【祈年祭(きねんさい)】は[としごいのまつり]ともいい、毎年2月17日に全国の神社でおこなわれています。
その年の五穀豊穣を祈願するお祭りです。春に田の神を山からお迎えし、秋には再び山へお送りするという農耕儀礼が、8世紀ごろから宮廷儀礼としても行われるようになったもので、秋の【新嘗祭(にいなめさい)】と相対するお祭りです。

【新嘗祭(にいなめさい)】は、春に祈願したとおりに、神々のお蔭を頂いて、豊かな実りを獲られたことを感謝する収穫感謝の祭りで、毎年11月23日に全国の神社でおこなわれています。
【新嘗(にいなめ)】とは、その年に収穫された新しい穀物を食することをいいます。